

### 地域金融機関をめぐる経営課題

小野 有人

#### 目 次

- 1. はじめに
- 2. 地域金融機関の現状
- 3. ミドルリスク企業向けエクイティ資金
- 4. マイナス金利の下でのバランスシート調整
- 5. 終わりに

日本の地域金融機関の課題は、もともと低水準だった預貸利鞘の低下が続いている点にある。地域金融機関の「薄利多売」型ビジネスからの脱却に向けて、本稿では、ミドルリスク企業に対するエクイティ性資金の可能性、預金の削減を含むバランスシート調整の必要性について考察する。

#### 1. はじめに

日本の地域金融機関（地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合）の基礎的な収益力は長期にわたって低下しており、かつ回復の兆しが見えない。金融庁 [2018] は、地方銀行・第二地方銀行のうち本業収益が赤字であった先が2018年3月期時点で過半数あり、そのほとんどが2期連続して赤字であったと警鐘を鳴らしている。

地域金融機関が収益力を回復する上での論点は何か。本稿では、筆者が考える地域金融機関をめぐる二つの経営課題—ミドルリスク企業向けエク

イティ資金の供給とマイナス金利政策の下でのバランスシート調整—について、Ono, Suzuki and Uesugi [2018]、Ono *et al.* [2018] に基づき論じたい（注1）。

#### 2. 地域金融機関の現状

日本の地域金融機関の収益構成をみると、伝統的な預貸ビジネスを中心とする国内での資金利益の占める比率が高い。資金利益は長期的に減少傾向にあるが、その主因は、預貸利鞘（貸出利回り—預金債券等利回り）の低下である。景気回復を



小野 有人（おの ありと）

中央大学商学部 教授。1991年東京大学経済学部卒業、2001年ブラウン大学博士（経済学）。91年4月、富士総合研究所入社。みずほ総合研究所、日本銀行金融研究所などを経て、2015年4月より現職。主な著書・論文に『新時代の中小企業金融：貸出手法の再構築に向けて』（東洋経済新報社、07年）、“Role of Collateral and Personal Guarantees in Relationship Lending: Evidence from Japan’s SME Loan Market”（Journal of Money, Credit, and Banking、09年、植杉威一郎氏との共著）がある。